



## 新年度 理事長挨拶

一般財団法人ふくしま市町村支援機構の運営につきましては、日頃から格別のご高配を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて、昨年は国内はもとより世界中で新型コロナウイルスが猛威を振るい、今年になって待望のワクチン接種が始まったものの、今なお収束の見通しは立っておりません。

こうした中、当機構といたしましても、感染対策には十分に留意し、今年度も発注者の皆様のご期待に応えられるよう努めてまいります。

3月11日で、東日本大震災と原発事故からちょうど10年が経過いたしました。

これまで県や市町村からの様々な復旧・復興事業の受託等を通じ、当機構としての役割を果たして参りましたが、本県の復興は未だ道半ばであります。

今年から始まる「第2期復興・創生期間」におきましても、特定復興再生拠点区域の整備など、被災地支援に引き続き取り組んでまいります。

また、昨年こそ台風被害がありませんでしたが、近年は自然災害が激甚化の一途をたどり、市町村においても「防災・減災、国土強靱化」への取組が喫緊の課題となっております。



理事長 遠藤 雄 幸

当機構といたしましても、風水害・地震対策や各種インフラの老朽化対策への支援に向けて、インフラメンテナンス技術者の育成に積極的に取り組んでいるところであります。

併せて、市町村における技術系職員の不足が最近顕著になっていることから、市町村建設担当職員に対する効果的な研修事業の実施や当機構職員の更なる技術力向上を図ることで、市町村から信頼され“かけがえのない存在”であり続けることを目指してまいります。

皆様方には、今年度も引き続きご支援とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

## 公益事業

### 令和3年福島県沖地震に伴う災害支援について

令和3年2月13日23時に発生した福島県沖地震は、国見町、相馬市、新地町で震度6強を記録するなど、県内各地に多大な被害をもたらしました。

被害に遭われた皆様に心より御見舞を申し上げます。

当支援機構においては、令和3年2月15日から、15の市町村等の要請に基づき、公共施設・インフラ等の被災状況について、現地において災害査定申請要件の有無の確認等合わせて44件の支援を行ったところです。

今後も、公共土木施設災害調査業務応援事業を始め、防災・減災、国土強靱化への支援を積極的に行ってまいりますので、お気軽にご相談下さい。

(土木技術部 建築設備部 TEL 024-522-5123)

## 「コスモス荘」が竣工しました

古殿町介護事業所「コスモス荘」が本年3月に竣工しました。この施設は木造平屋建て、延べ面積1,336.56㎡、敷地内に10台分の駐車場が整備されており、地域包括支援センターや各種の介護事業所及びデイサービスセンターの機能を有しています。2期工事では40台分の駐車場が整備される予定です。

施設の外観は明るくモダンなデザインとなっており、内部は自然素材を使った広々とした空間となっています。

この施設の積算及び工事監理を受託し、町担当者の技術的援助を行いました。

当支援機構は、これからも公営住宅整備事業をはじめ、建築事業に関する計画策定から、調査・測量・設計・積算・工事監理に至るまで発注者の皆様を幅広く支援してまいります。



(左から時計回り):  
外観、テイルーム、浴室、地域交流室、会議室



(建築課 TEL 024-522-5124)

## 一括受電設備工事について

一般的に役場庁舎等の大きな建物の場合、使用する電力が大きく、電力会社と6600Vの高圧電線から電気を引込む高圧受電契約を行うこととなっています。

通常、1つの建物で1つの受電契約となり、条件を満たす複数建物を取りまとめ、一括受電することにより、個別受電の電気料金の合算に比べて電気料金を低減させることができます。

高圧受電契約では、基本料金は過去1年間における30分以上続いた最大使用電力をもって契約電力(デマンド契約)が定められ、その契約電力により基本料金が算定される仕組みとなっています。

例えば、町所有のA・B・Cの3つの施設があった場合、Aの契約電力は400kw、Bの契約電力は250kw、Cは150kwとした場合、別々の契約をしていた場合、基本料金(約1,800円/kw・月)だけで毎月800kw分である144万円を支払っていることとなります。

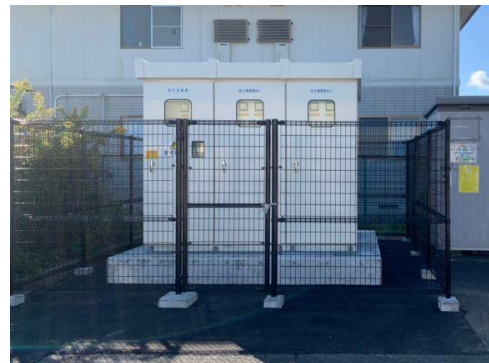
そこで、A・B・Cを一括受電した場合、それぞれの最大使用電力の時間帯は一致しないため、全体の最大使用電力は合計値である800kwにはならず、800kwより低い数値が契約電力になり、その分電気料金が下がることとなります。

この度、浪江町では、役場庁舎と役場の近隣にあるサンシャイン浪江(勤労者向け会議・運動施設)、浪江診療所の3施設の受電設備を統合して一括受電しました。

役場庁舎は、平日日中の電気使用が多いのに対し、サンシャイン浪江は平日夕方以降及び休日の使用が多いことから、電力需要の最大使用電力値(ピーク)が異なります。浪江診療所は、診療開始後の午前9時以降正午過ぎまでがピークと想定されます。

この結果、一括受電後の契約電力は統合前の契約電力の合計値に比べて大幅に下げることができました。

当支援機構では、電力契約の統合化事業に向け更に支援を行ってまいります。



浪江町一括受電受変電設備

(設備課 TEL 024-522-5121)

## 県施工の3トンネルがあいついで貫通しました

令和3年1月18日、いわき石川線「(仮称)石川トンネル」、令和3年1月20日、国道294号「南湖トンネル」、令和3年2月8日、国道288号「中屋敷トンネル」の貫通式が行われました。

それぞれ、福島県の3建設事務所(県中・県南・相双)により20年代初頭の完成を目指し、整備が進められています。

トンネルが計画されている区間は、地形が急峻で平面線形・縦断勾配等の解消や市街地の交通渋滞緩和として、安全で円滑な交通確保を目的として事業化されています。このことは、「ふくしま道づくりプラン(復興計画対応版)」にある県土連携軸・交流ネットワークの基盤を強化する道路について着実に進んでいることが確認できます。

今回は貫通式及び貫通石について述べたいと思います。

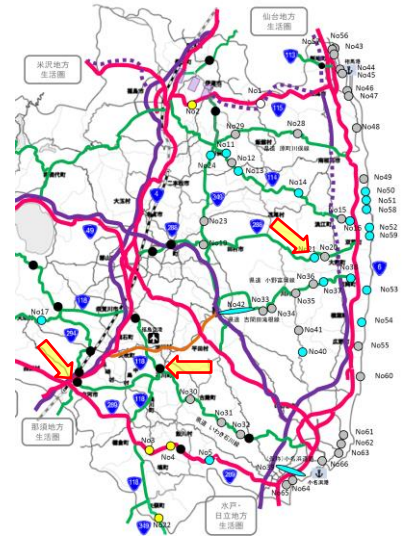
### 【貫通式】

貫通式は、トンネル工事における最大の式典であり、掘削工事が無事に貫通した(向こう側まで繋がった)ことを、山の神に奉告し祝う儀式です。式は「貫通の儀(貫通発破)」「貫通点渡り初め握手の儀」「樽神輿」「鏡開き」「万歳三唱」などが行われます。

また、従来の貫通式は実貫通後、暗幕を坑口にセットし貫通の儀に合わせて暗幕を除幕により貫通の儀としたセレモニーが大半でした。近年は貫通式で実貫通を行い祝う儀式が増えています。(今回の3トンネルは実貫通です。)

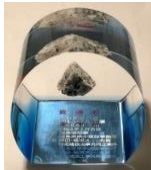


実貫通式



セレモニー型貫通式

### 【貫通石】



その昔、神功皇后三韓征伐の砌(みぎり)、彼の地に於いて敵を攻めめぐみ、ふと間道に洞(ほこら)あり、三日三夜不眠の甲斐ありて洞を突貫(つきぬき)、敵の背より攻め大勝を得たという。その記念にと貫通点の石を持ち帰って角鹿(つのが)の地に上陸、御自ら産気づき記念の石を枕辺にはべりたるところ、すこぶる安からにして男子出産し給う。

これにより隧道(ずいどう)貫通点の石は安産の石と称し珍重されております。

今日では最後の発破地点の石として「難関突破・初志貫徹」の意味から、合格祈願の守護石としても珍重されています。

当支援機構は、「ふくしま復興再生道路」の積算及び当該トンネルの施工(仮設)計画・積算・現場確認業務を支援しています。また、今回の各トンネルにおいて、トンネル工事の技術的課題について討議する「トンネル専門技術委員会」の委員を務めています。今後もトンネル事業に係る調査・計画・設計・積算・工事管理等を支援してまいりますので、どうぞお気軽にお問い合わせください。

(土木技術部 TEL 024-522-5123)

## 復興

### 川内村「町分住宅」が竣工しました

川内村の町分地区に、「町分地区景観づくり構想」の一つである「町分住宅」が竣工しました。本事業は、住環境整備における福島再生加速化交付金制度等を活用した事業であり、4月から入居が開始されます。

「町分住宅」は造成面積約0.98haであり、周囲の山並み、地域の木々、生き物との調和した風景が広がる中、ここで暮らす家族間のつながりや、地域の方々とのつながりを大切に、川内村ならではの住まい環境です。

当支援機構は平成30年度に造成設計業務、令和元年度に施工監理業務を受託するとともに、給水施設の設計・施工監理も当支援機構が担当しました。

今後も市町村の「住環境」整備の事業を支援してまいります。



着工前



施工完了 (ドローン撮影)

(土木課 TEL 024-522-3095)

## 研修講師の市町村派遣

福島市役所から災害復旧に関する技術職員研修会(専門研修)における、講師の派遣依頼がありました。

当支援機構では、技術アドバイザーである大内文男氏(災害復旧技術専門家認定登録済み)を研修講師として派遣いたしました。

研修会は市職員25名が参加し、講義のテーマを「災害復旧事業への備え」とし、大内氏が自身のエピソードを交えた経験談から始まり、「災害事業の概念」・「災害の取り組み」・「平時の準備」を内容として講義を行いました。

当支援機構では、県内市町村で建設事業等に携わる職員の専門的な知識・技術の習得と向上を図ることを目的とした研修会等の講師派遣(公益事業)を実施しております。

お気軽にお問い合わせください。 ※ 災害復旧技術専門家:公益社団法人全国防災協会認定者



(総務課 TEL 024-522-5123)

## 研修

### 令和3年度市町村建設事業等担当職員研修を開催します

当支援機構で開催する令和3年度の研修計画については、現在下記の予定となっております。

各コースの詳細については、開催日の1ヵ月前にお知らせしますが、感染症の動向により日程の変更等が生じる場合がありますので、その際はご了承ください。

昨年度はコロナ禍の影響で日程の変更等もありましたが、関係者の方々にご協力をいただきまして、無事終えることが出来ました。ありがとうございました。

#### 令和3年度 市町村建設事業等担当職員研修計画

研修区分	研修名	開催月	日数	備考
基礎	土木技術の基礎講座	5月・6月	3日	2回開催
初級	Jw-CAD 演習	4月・7月	2日	2回開催
	営繕積算システム RIBC2 による積算演習<建築>	6月	2日	
	設計積算システムによる積算演習<土木>	6月・7月	2日	2回開催
	許認可	7月	2日	
	用地研修	8月	2日	
	道路事業の計画設計(I)	8月	2日	
	水道施設の設計と施工管理	10月	3日	
中級	災害復旧事業の執行	7月	3日	
	工事検査	9月	1日	
	道路事業の施工管理と業務委託	11月	2日	
特別	ドローン	10月	1日	
	会計検査制度と指摘事例の解説	11月	1日	
	公営企業会計制度	11月	1日	
	公共施設の維持管理	12月	1日	
	災害時における地域支援について	1月	1日	

(総務課 TEL 024-522-5123)

#### 編集後記

福島市役所での技術職員研修会において、講師の「災害を予測の範囲に収める」という言葉は、目から鱗でした。管理施設の診断等のカルテ作成、関係者間との繋がりを意識するなど不断の準備が災害という不測の事態を予測の範囲に変えうるとのことでした。私たちが生活する上でのピンチもなりそうです。

【編集・発行】 〒960-8043 福島県福島市中町7-17 一般財団法人ふくしま市町村支援機構

TEL: 024-522-5123 (代表) FAX: 024-522-3631 E-Mail: info2@fctc.or.jp URL: https://www.fm-so.org/